

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4571900416
法人名	医療法人 俊生会
事業所名	グループホーム こすもす
所在地	宮崎県東諸県郡国富町大字本庄12146番地3 (電話) 0985-75-6204
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21 年 6 月 18 日

【情報提供票より】(21年 5月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 12 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷 金	☑有(60,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ☑無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(5月14日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	名
要介護5	3 名	要支援2	名
年齢 平均	92 歳	最低 82 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田中外科医院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家や農家が点在し田園風景がまだ残る静かな恵まれた環境の中にホームは立地している。近隣の人々が野菜を持って立ち寄りたり、ホームの行事に多くの人々が参加する等、地域との交流が深い。行政や同業者との連携を深め、研究会や情報交換を頻繁に行い、サービスの質の向上に積極的に取り組んでいる。また、ホームの運営上課題についても全員で前向きに取り組み、運営推進会議の独自開催等大きく改善されている。入居者の高齢化が進み運営上厳しい状況にあるが、職員の明るく心のこもったケアに支えられ、利用者は全員穏やかに暮らしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議のホーム独自の開催や研修報告の改善、利用者と一緒にの食事等大きな課題を職員全員で前向きに取り組む改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者が中心になって作成しているが、評価の意義やねらいを全職員で話し合い、理解を深め全員で取り組んでサービスの向上に活かしてほしい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	町内4ホームで年4回合同で開催し、ホーム独自で年2回開催している。会議では、運営状況の報告や年間行事計画の検討等、具体的な話し合いを行いサービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪が多く、来訪時にできるだけ声をかけ、意見や不満を表せる雰囲気作りを努めている。また、町内の4ホーム合同でアンケート調査を実施し、意見や不満を運営に反映させる取り組みを行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、近隣の人々が野菜を持って立ち寄りたり、ホームの行事に参加する等地域との連携に努めている。またボランティアも積極的に受け入れている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔、安らぎ、優しい言葉かけ」等、6項目からなる基本的な理念はあるが、地域との関係を重視した地域密着型サービスの理念とはなっていない。	○	地域の中で利用者が安心して暮らし続けることができるよう、地域密着型サービスの意義と役割を全員で話し合い、事業所独自の理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	今ある理念を毎朝のミーティングで唱和し、全員が理解に努め、理念を共有して実践に向け日々取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、近隣の人々が野菜を持って立寄り、ホームの行事に参加する等、地域の人々と交流することに努めている。また、ボランティアも積極的に受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員の意見を聞き管理者が中心になって作成している。職員は自己評価及び外部評価の意義や目的をまだ十分理解していない。	○	評価の意義やねらいを全員で話し合い理解を深め、自己評価は職員全員で取り組んでほしい。また、外部評価の結果については、運営推進会議に報告し、具体的な改善に向け取り組み、サービス向上に活かしてほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、町内の4ホーム合同で年4回開催し、事業所独自の会議を年2回開催している。会議では、運営状況の報告や年間行事計画の検討等、具体的な話し合いを行いサービスの向上に活かしている。		さらに事業所独自の運営推進会議が2か月に1回実施できるように取り組んでほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町内4ホームによる運営推進会議への積極的な支援や各種研修会の支援等、行政と協働でサービスの質の向上に前向きに取り組んでもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪が多く、毎日来訪する家族もいて、その都度利用者の暮らしぶりや健康状態を詳しく報告している。また、金銭管理は出納帳を作成して定期的に報告し、出納帳に家族の署名をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に出来るだけ声をかけ、意見や不満を表せる雰囲気づくりに努めている。また、町内4ホームで独自のアンケート調査を実施し、意見や不満を運営に反映させる取り組みを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は異動や離職を最小限に抑える努力をしている。バレーボールを通じて職員間のコミュニケーションが図られ、働きやすい職場環境となっており、異動や離職者が少なく利用者は安心して生活している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に参加している。研修の結果は、復命書を作成すると共に全員に報告し共有している。また、新人の研修は、母体医院で一定期間基礎的な勉強をした上でホームに配属する等人材育成に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内4ホーム合同で運営推進会議を開催し、情報交換や相互訪問、勉強会等を行っている。また、グループホーム連絡協議会にも参加して情報交換を行い交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	母体医院からの利用者が多く、地元の利用者が多いこともあって比較的スムーズに利用開始が行われている。また、利用開始前に本人や家族に見学に来てもらう等、徐々にホームの雰囲気に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	高齢化が進み、酸素療法等を行っている利用者もいて、日々の行動範囲がかなり狭くなっている状況にあるが、利用者の力の範囲で庭園の草むしりや洗濯物たたみ等を職員と一緒にいい信頼関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の行動や表情、会話の中から思いや意向を出来るだけ把握出来るように努めている。また、家族や関係者の情報も活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族と充分話し合い、職員間で意見交換を行い、職員の気づきやアイデアを反映した利用者本位の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月利用者や家族の意向や状況を確認し、モニタリングを行っているが、介護計画の見直しは6か月に1回となっている、	○	本人及び家族の状況は刻々と変化しており、安定している利用者の場合も、月に1回程度は意向や状況を確認すると共に、介護計画は3か月に1回の見直しをしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況や希望に応じて、通院や外泊、特別な外出等柔軟に支援している。また、医療連携体制を活かして、早期退院の支援、重度化した場合の対応等に取組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を基本としているが、ほとんどが母体医院をかかりつけ医としている。週に1回の往診と、いつでも気軽に相談や受診が出来る体制が出来ている。また、訪問看護ステーションとも契約し、24時間体制で適切な医療提供の支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、利用開始時に看取りに関する指針を本人、家族に説明し同意を得ている。また、関係者全体で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の人格や誇りを損ねるような言葉かけや対応がないように細心の配慮をしている。また、書類の取り扱い管理等情報の漏洩防止に全員で取組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての基本的な流れはあるが、無理をすることなく、出来る範囲で自分のペースを大切に、自由に暮らせるように柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの嗜好や希望に配慮し、季節感を大事にした食材を取り入れたバランスの良い食事の内容となっている。高齢化が進み全介助の利用者が二人いてかなり厳しい面があるが、人員に余裕のあるときは利用者と一緒に職員が一人でも食事を楽しめるよう努力している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則週3回となっているが、毎日入浴される利用者もいて、希望があればいつでも入浴できるように支援している。職員のローテーションを考慮しながら、できるだけ利用者の希望にそった入浴が出来るよう柔軟に支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの体調や有する力の範囲で、庭の草むしりや洗濯物たたみ、カレンダーめくり、体操等、役割、楽しみごとを作り出す働きかけを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の高齢化が進み、要介護度の高い利用者が多く、日常的な外出支援はかなり厳しくなっている状況にある。利用者の体調に配慮しながら、出来る範囲で近くの公園まで散歩に出かけることがある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や居室には鍵をかけていない。近隣の人々が協力的で近くを歩いていた利用者をホームまで送り届けてもらったこともある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年4回防災訓練を行っている。マニュアルも作成し、地域住民にも協力を働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分摂取量は毎日チェック表で管理している。母体医院の栄養士の献立により、各利用者に合った栄養管理の支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、中央の吹きぬけから明るい光がさしこみ、ゆっくりとくつろげる畳間もあり、家庭的な雰囲気となっている。テーブルには家族が持参した季節の花が飾られ、居心地よく過ごせるように工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた食器類や衣類、家族との思い出の写真等が飾られ、利用者が安心して居心地よく生活できるように工夫をしている。		